

「校訓を活かした学校づくりの在り方について」(報告書)の概要等 平成21年8月

推進会議設置までの経緯

情報化の急速な進展等に伴う、人と人との絆の弱体化、家庭や地域の教育力の低下



「心を育む」ための塩谷文部科学大臣の5つの提案

「2. 校訓を見つめ直し、実践する。～先生と子どもが一緒になって、各学校にある校訓を具体化する取組を継続的に実践し、地域でこれを応援しよう！」



「校訓等を活かした学校づくり推進会議」の設置

報告書の概要

1. 校訓を活かした学校づくりの意義

○「校訓」とその存在意義

- ・学校で、教育上の理念・目標を成文化したもの。
- ・一般的な校訓の他、各学校の教育理念を実現するため目標・スローガンが置かれることがある。
- ・学校づくりに関わる人々に価値観の共有をもたらす。

○「校訓を活かした学校づくり」の取組と期待される効果

- ・校訓が象徴する伝統を継承し、それに基づいて学校づくりを進める取組
 - ➡ 愛校心や学校への帰属意識の高まりによる、学校教育活動の円滑化
- ・新たな校訓の創造等を生徒が中心となって進め、それに基づいて学校づくりを進める取組
 - ➡ 全体が一致協力する取組による学校のまとまり、生徒の自立心等の育成

2. 校訓を活かした学校づくりの実例

○埼玉県立深谷商業高等学校

地域に根ざした伝統的な校訓を教育活動に活かした事例

○山形県鶴岡市立朝暘第三小学校

家庭と連携して、子どもたちに身に付けさせたいマナーをまとめた「三陽しぐさ」を定め、地域の思いを学校づくりに具体化した事例

○大阪府高槻市立第七中学校

生徒が主体的な活動により、理想とするスローガンを定め、その頭文字を取った「JASMIN運動」と呼ばれる積極的な生徒指導を展開した事例

○鳥取県立倉吉西高等学校

生徒・保護者・教職員の希望を集結して定めた「生徒憲章」を中心に学校づくりを行っている事例

○兵庫県立芦屋国際中等教育学校

英語の校訓で多種多様な背景の児童生徒を統合する事例

3. 校訓を活かした学校づくりの進め方

○取組意識の共有

校訓を活かした学校づくりに当たっては、教員、児童生徒、保護者、地域住民等で目標・理念、学校づくりのための活動など取組意識の共有を図ることが第一歩

○関係者全体への浸透

校訓を活かした学校づくりの目標や方針について、より多くの関係者に浸透を図り、教員、児童生徒、保護者、地域住民等の間で参画者の輪を拡大することが重要

○校訓を活かした学校づくりの積極的展開

一つの領域において学校づくりの取組が成果を挙げている場合には、より良い学校づくりに向けた取組をより積極的に幅広く展開していくことが重要

○次世代への継承の問題

当初の関係者の入れ替わり・代替わりを克服して次世代に継承する工夫が必要

～ 校訓を活かした学校づくりの推進に向けて ～

校訓を見つめ直し、実践する取組は、多くの学校で伝統的な校訓の継承や新たな校訓の創造といった形で行われており、校訓を紐帯として学校・家庭・地域が連携協力している例も少なくないことが分かる。

これらの取組によって、学校は団結し、児童生徒は愛校心や自立心を持って一人の人間として様々な能力を身につけ、地域の活性化も期待できる。

「校訓を活かした学校づくり」は、「人づくり」、「地域づくり」にもつながる極めて有効な取組であり、各学校で積極的に推進していくことが望まれる。

【今後の取組について】

- ・報告書の配付
- ・各種会議における周知
- ・文部科学省ホームページへの掲載
- ・取組方針に関する児童生徒課長通知の発出
- ・リーフレットの作成・配付